

令和3年度指定管理者による管理に対するモニタリング・評価の結果について

総括シート〔令和3年度〕

施設名称	品川図書館Aグループ（荏原図書館、ゆたか図書館、源氏前図書館）
指定管理者	しながわTRC・リディアグループ
施設所管課	教育委員会事務局品川図書館

<設置目的>

図書館法第10条の規定に基づき、区民および図書館利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。

指定管理業務の概要

- (1) 館の資料貸出、返却、登録、予約・リクエスト、レファレンス等窓口業務に関すること。
- (2) 資料の選定、保存、除籍等蔵書管理に関すること。
- (3) 図書館運営および行事、地域サービスに関すること。
- (4) 施設の維持・管理に関すること。
- (5) その他館の運営に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入館者数（人）	502,320	365,240	497,222
全登録者数（人）	37,040	39,497	42,202
全貸出総数（点）	811,197	682,141	835,056
予約処理件数（件）	282,177	287,210	321,352
レファレンス件数（件）	12,961	12,931	14,158
児童おはなし会参加者数（人）	2,651	470	914

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）

	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
収	指定管理料	230,644,000	233,694,000	239,266,000
	複写サービス収入	541,490	272,680	332,370
入	小計	231,185,490	233,966,680	239,598,370
支	資料費	43,967,934	43,782,883	44,314,075
	光熱水費	3,137,536	2,935,597	3,352,741
	小破修繕・補修工事費	2,087,661	2,305,888	1,006,060
	備品購入費	601,700	211,200	2,456,300
	人件費	164,281,738	170,904,789	173,005,089
	その他運営経費	16,648,499	15,747,420	15,044,489
出	小計	230,725,068	235,887,777	239,178,754
	差引収支	460,422	△1,921,097	419,616

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

（積極的に評価した項目）

- 商店街との連携事業により、地域に開かれた図書館として地元住民にも喜ばれ、地域連携が強化されている点は高く評価できる。
- ティーンズサービスでは、お薦め本の書評バトルの企画・運営を一手に担い、今後の品川区立図書館におけるティーンズサービスを牽引する役割を果たした。また、初めて実施したティーンズボランティアは、イベントや工作会など色々な事業を運営し、学校との連携も強化された。
- 認知症カフェは、外部講師による英会話講座や回想法講座、植物を調べる講座など、スタッフのアイデアを活かした企画を実施した。また、高齢者福祉課認知症対策係とも連携し、認知症カフェの充実に取り組んだ。

（第三者による荏原図書館への意見）

- コロナ禍においても、短時間の滞在でも満足できる図書館体験を提供するため、テーマ別資料を紹介する多数のブックリストを作成や、スタッフが選んだ本のセット貸出を行うなど、新しい本との出会いをつくっており、利用者の好評を得ている。

（改善が必要な項目）

- 有資格者の配置については60%以上の配置について努力すること。
- コロナ禍における感染予防対策の継続を求める。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- 有資格者の配置について引き続き努めるとともに、感染防止対策を徹底し、高齢者や児童のニーズや特性に配慮した事業の実施に取り組むこと。
- 学校や商店街との連携を継続的に実施し、地域における情報発信のさらなる強化を図ること。
- 感染対策を継続した上で、多くの資料に触れる機会の提供、館内環境の整備、レファレンスの強化など図書館資料と利用者をつなげる取り組みを図ること。また、非来館型サービスとして、電子図書館やナクソスミュージックライブラリーの広報活動を強化すること。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

- 利用者満足度について、例年どおり一定程度の高い満足度を維持している。(荏原図書館 86%→83%、ゆたか図書館 88%→76%、源氏前図書館 86%→83%)
- 館内投書箱やカウンターにて利用者の声を収集し、意見や要望を運営に反映させ、利用者満足度向上に向け改善に取り組んでいる。
- 企画行事実施後に参加者アンケートを実施し、次回の企画に取り入れるなど、区民要望に応えるための取り組みを行っている。
(第三者による荏原図書館への意見)
- 利用者満足度調査において、地域と連携した事業の実施や認知症カフェの充実への取り組みなどにより、「優良」の評価を得ている。

2 予算執行（財務）の視点

- 適切な予算執行に向けて資料費、光熱水費、小破修繕・修繕工事、備品購入費等年間予算計画を立て、執行にあたっては事前に品川図書館との協議や四半期毎の報告を行っている。収入は複写サービス料金のみであるが、前年度実績に基づき収入計画を立てている。
- 老朽化が進む建物の修繕等の対応とともに、施設維持管理については、定期点検など施設維持管理事業者と打ち合わせを行いながら実施している。
- 支出については概ね計画どおり執行できている。コロナ禍におけるサービス縮小の影響もあるが、複写サービス収入は令和2年度と比較し上回っている。
- 備品購入費では、ゆたか図書館と源氏前図書館に書籍除菌機を購入した。

3 サービス向上および業務改善の視点

- 利用者が自宅に居ながら本選びができるブックリストの提供や、滞在時間が短くても本が借りられるおまかせパックや福袋の貸出により、利用者の利便性を高める取り組みを行っている。
- 集客イベントの開催が難しいなかであっても、企画展示を開催することで、学校や商店街との連携を維持できている。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- Aグループは、(株)図書館流通センターとNPO法人リディアが共同事業体として指定管理者を受託。一般サービスは(株)図書館流通センター、児童サービスはNPO法人リディアが実施している。月1回の共同事業体会議、グループ館長会、児童責任者会議等事業運営にあたり情報の共有が図れるよう工夫と体制を整えている。
- グループ間での人員配置、応援体制も確立されており、土曜日・祝日・日曜日等の利用者が集中する曜日や時間帯においてもサービスを低下させない運営体制に努力している。継続的な有資格者の配置が課題となっている。
- オンライン研修や内部監査を行い、個人情報管理、労務管理、会計管理などを適切に行う体制づくりを強化している。

※ 経営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き利用者のニーズや特性に配慮したサービスの提供を行うこと。また、感染防止対策を徹底し、地域や商店街等との連携事業を継続すること。

総括シート〔令和3年度〕

施設名称	品川図書館Bグループ（大井図書館、南大井図書館、八潮図書館）
指定管理者	株式会社ヴィアックス
施設所管課	教育委員会事務局品川図書館

<設置目的>

図書館法第10条の規定に基づき、区民および図書館利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。

指定管理業務の概要

- (1) 館の資料貸出、返却、登録、予約・リクエスト、レファレンス等窓口業務に関すること。
- (2) 資料の選定、保存、除籍等蔵書管理に関すること。
- (3) 図書館運営および行事、地域サービスに関すること。
- (4) 施設の維持・管理に関すること。
- (5) その他館の運営に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入館者数（人）	443,953	348,563	439,584
全登録者数（人）	30,069	32,171	34,473
全貸出総数（点）	686,040	617,715	774,062
予約処理件数（件）	264,681	266,342	310,144
レファレンス件数（件）	10,299	8,427	8,431
児童おはなし会参加者数（人）	2,278	476	1,226

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）

	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
収	指定管理料	220,636,000	223,477,000	227,683,000
	複写サービス収入	428,330	272,790	400,050
入	小計	221,064,330	223,749,790	228,083,050
支	資料費	36,702,862	36,700,309	37,232,914
	光熱水費	13,651,878	11,869,799	12,626,138
	小破修繕・補修工事費	991,060	583,280	999,685
	備品購入費	600,000	999,724	2,456,000
	人件費	137,250,000	138,689,000	140,506,000
	その他運営経費	31,696,764	32,064,583	32,069,743
出	小計	220,892,564	220,906,695	225,890,480
		171,766	2,843,095	2,192,570

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

（積極的に評価した項目）

- 地域の方との交流から、流通していない貴重な資料の収集を積極的に行い、館内展示や所蔵資料を充実させ、地域の情報発信拠点として大きな役割を果たした。また、近隣施設との継続的な連携を図っており、企画等を発展させ、さらに新規連携先の開拓にも努めている。
- 司書資格取得を推進し、有資格者配置率をさらに向上させている。
- ティーンズ世代の利用推進を図るため、ティーンズ世代向けの本の導入を増やし、ティーンズ資料の貸出数につながっている。新7年生向けの「SCHOOL NAVI from LIBRARY 2022 中学生になるきみに」といったブックリスト作成も継続して実施している。

（第三者による意見）

- Bグループの目標である「多様な資料と出会う場所、その資料をきっかけに知識や興味の広がりを支える図書館づくり」の達成に向けた取り組みを工夫し、読んだ本を記録する楽しみ、利用者達成感を味わってもらっている。
- 中高生が、図書館を自分たちの居場所と思えるコーナーづくりも工夫し、中高生の読書離れ防止に積極的に取り組んでいる。

（改善が必要な項目）

- コロナ禍における感染予防対策の継続を求める。
- 近隣施設とのさらなる連携を図り、安定した事業運営を行うこと。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- 感染対策を継続した上で、多くの資料に触れる機会の提供、館内環境の整備、レファレンスの強化など図書館資料と利用者を結びつける取り組みを図ること。また、非来館型サービスとして、電子図書館やナクソスミュージックライブラリーの広報活動を強化すること。
- 近隣施設とのさらなる連携を図り、地域の特色を活かした事業を計画的に実施すること。また、認知症カフェの安定した運営を継続すること。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

- 重点テーマに掲げている接遇について研修を実施し維持向上に努めており、特に大井図書館の利用者満足度は97%と高水準となっている。
- 上半期に実施した利用者アンケートの結果をもとに、改善に取り組み、図書館サービスに反映させる継続的な努力が利用者満足度の高評価に繋がっている。

（第三者による大井図書館への意見）

- 今年度の利用者満足度調査では、サービス全般に対する満足度において非常に高い満足を得ている。館長もフロアで接客し利用者の意見や要望などを直接聴取している。

2 予算執行（財務）の視点

- 予算執行にあたっては、資料費、光熱水費、小破修繕・修繕工事、備品購入費、施設維持管理費、事務費等年間計画を立て、本社経理担当および公認会計士による確認を行い、適正執行に

努めている。修繕や備品購入に関しては事前に品川図書館と協議を行い、計画的に執行している。

➤ 支出については概ね計画どおり執行できている。コロナ禍におけるサービス縮小の影響もあるが、複写サービス収入は令和2年度と比較し上回っている。

➤ 備品購入費では、南大井図書館と八潮図書館に書籍除菌機を購入した。

(第三者による意見)

➤ 適宜グループ内で予算執行を調整し、「人件費」と「施設管理費」はバランス良く執行できている。

3 サービス向上および業務改善の視点

➤ 近隣小中学校・義務教育学校との連携により、前年度に引き続き新中学生向けリーフレットの作成や、新たに小学校のまちたんけん用 DVD や新たな図書館案内を制作し近隣施設に配布したりするなど、図書館のさらなる利用促進に寄与した。

➤ コロナ禍における事業については、オンラインを活用したイベントや、3密を回避するため開催期間を長くするなど、来館時に気軽に参加できるよう配慮した。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

➤ 運営体制については、募集要項、業務要求基準書に基づき統括館長、地区館長を配置し、有資格者配置の値は高い水準を維持している（大井図書館有資格者配置 61%、南大井図書館有資格者配置 79%、八潮図書館有資格者配置 64%）。

➤ 年間研修計画に基づき、本社での研修および館内整理日を活用した研修を実施し、図書館サービスの基本となる接客やレファレンス力の向上に努めている。

※ 経営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き、人材育成や接遇の向上に努め、継続的かつ安定的な図書館サービスの提供を行うこと。また、感染症対策を徹底しつつ、学校や近隣施設との連携強化を工夫して行うこと。

総括シート〔令和3年度〕

施設名称	品川図書館Cグループ（五反田図書館、大崎図書館、大崎図書館分館、二葉図書館）
指定管理者	しながわTRC・リディアグループ
施設所管課	教育委員会事務局品川図書館

<設置目的>

図書館法第10条の規定に基づき、区民および図書館利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。

指定管理業務の概要

- (1) 館の資料貸出、返却、登録、予約・リクエスト、レファレンス等窓口業務に関すること。
- (2) 資料の選定、保存、除籍等蔵書管理に関すること。
- (3) 図書館運営および行事、地域サービスに関すること。
- (4) 施設の維持・管理に関すること。
- (5) その他館の運営に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入館者数（人）	700,736	484,817	623,115
全登録者数（人）	50,893	54,967	59,398
全貸出総数（点）	996,720	855,849	1,033,763
予約処理件数（件）	391,597	389,837	430,638
レファレンス件数（件）	14,871	13,134	18,041
児童おはなし会参加者数（人）	3,772	688	1,716

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）

	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
収	指定管理料	306,810,000	311,327,000	311,405,000
	複写サービス収入	620,230	357,340	440,620
入	小計	307,430,230	311,684,340	311,845,620
支	資料費	61,738,694	63,265,183	58,074,021
	光熱水費	1,975,019	2,017,745	2,095,563
	小破修繕・補修工事費	1,006,336	1,001,077	970,329
	備品購入費	600,640	995,500	1,503,400
	人件費	222,517,724	226,499,624	229,909,903
	その他運営経費	19,567,135	19,335,574	18,840,553
	小計	307,405,548	313,114,703	311,393,769
	差引収支	24,682	△1,430,363	451,851

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

（積極的に評価した項目）

- 滞在時間に制限がある中でも、利用者が家に持ち帰り楽しめる工作やブックリストの提供など、実施可能な非滞在型の事業を積極的に企画し実施している。
- ティーンズ向け資料の充実、ビブリオバトルの実施などを重点テーマとして掲げた、ティーンズサービスの拡充に努めている。

（改善が必要な項目）

- 図書館運営の基本である選書・蔵書管理・レファレンス等のさらなる充実が求められており、スタッフのスキルアップや年間計画に基づく研修の実施が求められる。
- 地域のニーズに合った地域連携事業が求められる。
- 有資格者の60%以上の配置について努力すること。
- コロナ禍における感染予防対策の継続を求める。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- コロナ禍においても、オンライン研修の積極的な受講や、受講後のフォローアップ実施など、スタッフのさらなる育成に努めること。
- 近隣の福祉施設や地域企業との連携を強化し、積極的な情報発信を行うこと。また地域と連携した認知症カフェの充実を図ること。
- 有資格者の配置について引き続き努めること。
- 感染対策を継続した上で、多くの資料に触れる機会の提供、館内環境の整備、レファレンスの強化など図書館資料と利用者を結びつける取り組みを図ること。また、非来館型サービスとして、電子図書館やナクソミュージックライブラリーの広報活動を強化すること。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足度の視点

- 利用者満足度は一定程度の水準を維持している（五反田図書館 91%→81%、大崎図書館 77%→84%、大崎図書館分館 86%→86%、二葉図書館 84%→89%）。
- 利用者アンケートから利用者傾向を把握し、意見や改善点について図書館運営に反映させたところは、満足度向上に繋がっている。

2 予算執行（財務）の視点

- 適切な予算執行に向けて資料費、光熱水費、小破修繕・修繕工事、備品購入費等年間予算計画を立て、執行にあたっては事前に品川図書館との協議や四半期毎の報告を行っている。収入は複写サービス料金のみであるが、前年度実績に基づき収入計画を立てている。
- 支出については概ね計画どおり執行できている。コロナ禍におけるサービス縮小の影響もあるが、複写サービス収入は令和2年度と比較し上回っている。
- 備品購入費では、二葉図書館に書籍除菌機を購入した。

3 サービス向上および業務改善の視点

- コロナ禍で予定していた事業が実施できない中、代替の非集客型イベントを積極的に実施し、配布物や特集展示を充実させることで、短時間滞在で楽しめる図書館サービスの拡充が図られた。
- 大崎図書館と SHIP（品川産業支援交流施設）の連携や、二葉図書館と大崎高等学校防災部が連携した「防災展示」実施など、地域の特性や特徴を生かし、事業連携に取り組んでいる。
- 大崎地域の図書館環境充実と利用拡充に向け、大崎図書館、大崎図書館分館、大崎駅西口図書取次施設との共同企画の取り組みや連携事業が引き続き求められている。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- Cグループは、(株) 図書館流通センターとNPO法人リディアが共同事業体として指定管理者を受託。一般サービスは(株) 図書館流通センター、児童サービスはNPO法人リディアが実施している。月1回の共同事業体会議、グループ館長会、児童責任者会議を実施するなど体制を整えているが、引き続き連携強化が求められる。
- 新型コロナウイルス感染症に関して、感染症防止対策や罹患者が出た場合の対応整理など危機管理に対する取り組みを行っている

※ 経営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。感染症対策を徹底し、特集展示やブックリストの作成など実施可能なサービスの提供等を引き続き行うこと。また、近隣施設との継続的な連携を行うこと。

文 教 委 員 会 資 料
令 和 4 年 1 1 月 1 日
子 ども 未 来 部 子 育 て 応 援 課
子 ども 未 来 部 保 育 課

令和3年度指定管理者による管理に対するモニタリング・評価の結果について

- 1 子育て応援課 所管施設
 - ・品川区立家庭あんしんセンター
- 2 保育課 所管施設
 - ・品川区立就学前乳幼児教育施設（ぷりすくーる西五反田）

総括シート〔令和3年度〕

施設名称	品川区立家庭あんしんセンター
指定管理者	社会福祉法人 福栄会
施設所管課	子ども未来部 子育て応援課

<設置目的>

母子家庭に対する自立生活支援および子育て家庭に対する育児支援を図る。

指定管理業務の概要

- (1) ひまわり荘、子育て支援センター、ファミリー・サポート・センターにおける事業運営に関すること。
- (2) ショートステイ室、トワイライトステイ室の利用承認および承認取消に関すること。
- (3) ショートステイ室、トワイライトステイ室の利用に係る利用料金の徴収に関すること。
- (4) 施設等の維持および修繕に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
来館者数(人)	5,178	1,841	2,035
ショートステイ実施件数(延宿泊数)	87	99	173
トワイライトステイ実施件数(延利用回数)	1,637	560	543

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要(単位:円)

	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
収 入	管理運営委託料	145,098,637	148,695,822	139,292,186
	子育て短期支援事業利用料等	2,703,600	1,167,000	1,495,325
	母子生活支援施設処遇改善臨時特例事業補助金	-	-	152,600
	小計	147,802,237	149,862,822	140,940,111
支 出	人件費	113,383,176	120,647,413	113,950,459
	事業費	2,179,425	1,583,483	2,184,692
	事務費(維持管理・修繕費等)	30,244,531	31,541,902	33,438,451
	小計	145,807,132	153,772,798	149,573,602
差引収支		1,995,105	△3,909,976	△8,633,491

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

【評価事項】

- ひまわり荘では、自立支援計画票等に基づき母親の支援を行い、コロナ禍においては、日常的な会話や生活場면을捉えて丁寧に汲み取り、見えてくるニーズや課題を適切に把握していた。予定していた利用者向けの研修はできなかったものの、互助会として母親等に提供する情報交換や学びの場は復活し、外部の講習会の情報提供やその時々情報交換などに努めていた。特に、現入所者の子に乳児が増えたこともあり、離乳食の作り方や子育てに関するアドバイスを積極的に取り組んでいた。
- 子育て支援センターでは、新型コロナウイルス拡大のため、本来4月から開催予定の親子交流事業を11月から開催した。「フラット広場」については開放時間を6月より10時～12時・13時～15時として開放。12時から13時は室内消毒及び玩具入れ替えを行った。また、最大利用人数を4組(8名)と制限を設け、感染対策を徹底して運営を行った。
- ファミリー・サポート事業では、養成講座を年4回開催し、新規提供会員12名の登録があった。依頼会員の登録について、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置発令中は郵送での登録を可能とした。また、活動件数は、前年度の1,305件から1,811件になり、約40%の増加となった。

【改善事項】

- 人材育成の促進、事故防止の取り組み強化

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- 質の高いサービス提供ができるよう、積極的に外部研修への参加や、外部講師による施設内全体研修を実施し、職員のスキル向上に努めていく。
- 事故防止の取り組みとして、ヒヤリハット事例の検討、危険個所の点検、事故発生時の迅速な再発防止策の再検討、業務マニュアルの見直し・更新など、リスクマネジメントに取り組んでいく。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

- 各事業において、利用者からの意見・要望については、日常会話、互助会行事、意見箱や苦情解決制度などさまざまな方法で情報収集し、迅速な対応と事業の改善に取り組んでいる。

2 予算執行（財務）の視点

- 管理運営委託料は適切かつ計画的に執行し、光熱水費のコスト削減など節電に努めるとともに、利用料金収入は、環境整備や安全の確保など利用者サービス向上のために充てている。令和3年度から子育て支援センターの相談事業の一部を子ども家庭支援センターに移管したため、指定管理料が前年よりも減少した。
- 子育て短期支援事業では、利用管理システムを活用し、効率的に請求事務を行っている。

3 サービス向上および業務改善の視点

- 各事業ごとに目標値を設定し、達成に向けて常に取り組んでいる。また、日々の業務については、職員会議等で改善策を図っている。
- ひまわり荘では、毎月の互助会行事やアンケート等により、利用者からの要望・意見を把握し改善に活かすとともに、退所家庭のアフターケアの継続実施と充実を図るなど、着実な自立支援をサポートしている。
- ファミリー・サポート事業では、利用者の支援向上に向けて、提供会員の意向調査を実施し、結果を事業に活かしサービス向上に取り組んでいる。また、利用パンフレットの刷新や利用方法の工夫に努め、利用者に寄り添った事業となるよう改善を続けている。
- 虐待対応を子ども家庭支援センターに統合したため、令和4年度より「子育て支援センター」の名称を「家庭あんしんセンター」に変更した。
- ショートステイの利用事由が、育児疲れ、育児不安の場合には、子育て短期支援事業の職員のほか子ども家庭支援センターの職員が面談の席に同席し、家庭状況や子どものアセスメントなどの情報共有ができる体制を構築し、利用者の養育不安対応や虐待の未然防止を図った。
- ショートステイ・トワイライトステイは利用児童の年齢幅が大きく、また特別な支援を必要とする児童もいるため、利用する児童の年齢、特性を配慮した適切な人員配置、室内環境づくりを行い、利用者が安心、安全に利用できるよう取り組んだ。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

- 適正な職員配置や各事業間連携が図られており、庶務・人事・経理などは法人本部と連携・情報共有しながら効率的な業務執行に努めている。また、事業実施等についても常に区と連絡調整を行いながら適切に実施している。
- 近年増加しているサイバー攻撃や情報漏洩等へのセキュリティ対策強化のため、法人全体で情報ネットワーク・ファイヤウォールの構築を行ったほか、法人の「情報管理安全対策」に規定する対策（研修や定期点検など）を実施することで、適切な情報管理の徹底に努めている。
- 防災マニュアル等に基づき、月1回の防災避難訓練のほか、年1回、荏原消防署の立会いのもと防災避難訓練を実施している。また、震災対策として、震災マニュアルに基づき行動し防災対応に万全を期した。

※ 経営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き感染防止対策を講じながら、事業を継続し、職員のスキル向上のための研修等に取り組むこと。また、事業の実施にあたっては区の関係機関と連携し、包括的な支援体制の強化に努めること。

総括シート〔令和3年度〕

施設名称	品川区立就学前乳幼児教育施設（ぶりすくーる西五反田）
指定管理者	社会福祉法人福栄会
施設所管課	子ども未来部保育課

<設置目的>

小学校就学前の乳幼児に対し、保育園および幼稚園の相互の特色を生かした保育および教育を継続的かつ一体的に実施することにより、乳幼児の健全な育成を図るとともに、地域における子育て家庭を支援する。

指定管理業務の概要

- (1) 保育園、幼児教育施設および地域子育て支援センターにおける事業の運営に関すること。
- (2) 延長夜間保育の利用の承認および承認の取消しに関すること。
- (3) 幼児教育施設の入園の承認ならびに入園の制限および退園に関すること。
- (4) 預かり保育の利用の承認に関すること。
- (5) 利用料金の徴収に関すること。
- (6) 施設および設備の維持・修繕に関すること。

事業報告書に添付した管理運営実績に関する統計情報の概要

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者数（人）	月平均 121 人	月平均 121 人	月平均 120 人
支援センター入館者数	月平均 569 人	月平均 321 人	月平均 233 人
オアシスルーム利用者数	月平均 157 人	月平均 71 人	月平均 90 人

事業報告書に添付した管理運営実績に関する事業収支の概要（単位：円）

	項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
収	管理運営委託料	224,564,770	172,602,467	232,949,333
	利用料金等	29,065,290	52,156,761	10,194,373
入	小計	253,630,060	224,759,228	243,143,706
支	人件費	150,248,968	145,454,541	158,137,883
	事業費	40,431,792	25,238,971	23,234,266
	事務費等	42,022,346	52,693,289	53,666,843
出	小計	232,703,106	223,386,801	235,038,992
	差引収支	20,926,954	1,372,427	8,104,714

総括（積極的に評価した事項、改善が必要な事項）

- ・令和3年4月より、指定管理者は「NPO子育て品川」から「社会福祉法人福栄会」へスムーズな移行を図り、就学前までの一貫した教育・保育指針に基づき、幼児教育を行う品川区独自の乳幼児教育施設として、高い保育目標のもとに活動を続けている。
- ・園では、独自の年間保育計画を立て、職員との共有化を図り、創意工夫しながら、日々の保育に反映できるよう取り組んでいる。
- ・「安心・安全な食の提供」は基より、食物アレルギー配慮食を始め、保護者対象の試食会など、様々な機会を通して、給食委託業者と連携し、「食育」の強化・充実に努めている。
- ・品川区主催研修への参加や園内研修の機会を増やし、内容を多様化するなど、職員の資質・専門性の向上に努めている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大状況を見極めながら、支援センターおよびオアシスルームの利用制限をしていたが、令和4年3月から利用制限を解除し、利用促進を図った。

改善が必要とされた原因の分析および対応方針

- ・優秀な人材確保・離職防止のため、従前の「品川区保育士等キャリアアップ補助金相当分」や「保育サービス推進費補助金相当分」、「処遇改善等加算Ⅱ補助金相当分」、「保育従事職員宿舍借り上げ支援事業補助金」などの制度に加え、令和3年度に創設された、「処遇改善臨時特例事業補助金制度」、を積極的に活用し、職員への処遇改善に取り組むとともに、経費の削減にも取り組んでいる。

「評価の視点」別のコメント

1 区民満足の視点

品川区独自の就学前乳幼児教育施設として、特色ある保育活動および施設運営を行っており、令和2年度東京都福祉サービス第三者評価においても、保護者の満足度は97%に達しており、満足度は高い。

2 予算執行（財務）の視点

特色ある事業の充実や人材確保のための職員の処遇改善を図りながらも、効率的な施設運営および収入の確保に努めた結果、収支状況は安定している。令和3年度より保育士に対する処遇改善補助金が追加されたため、収入が増加した。

3 サービス向上および業務改善の視点

- ・日本の伝統文化や他国の文化に触れたり、ダンスやアートセラピーなど子供の発達や興味・関心に合わせて、保育・教育を展開した。
- ・年間指導計画が保育・教育に反映されるようPDCAサイクルで評価・改善に努めている。
- ・連絡帳などで保護者からご意見をいただいた際は直ちに確認し、面談等での説明や子どもの様子を共有するなど、コミュニケーションを大切にしている。

4 組織管理体制および業務の適正執行の視点

(組織管理体制)

- ・児童福祉法による保育所・幼稚園運営にあたる適切な人員を配置し、適切な組織運営が行われている。
- ・内部研修の充実に努め、職員のスキルアップに取り組んだ。

(業務の適正執行)

- ・不審者対応管理対策として、セキュリティカードシステムを使用するなど、万全の危機管理体制を構築している。
- ・事故、災害および非常時対応の訓練強化に努めているとともに、非常食や発電機等を備えるなど、園児の安全確保に努めている。
- ・法人管理規定に基づき再委託先を管理している。
- ・個人情報の保護および法令遵守の観点から、日常業務における個人記録の管理等を徹底している。

※ 経営会議における評価結果

評価の結果、総括シートの内容のとおりとする。引き続き、職員の人材確保とスキルアップに取り組むこと。また、感染防止対策を講じながら、特色ある保育・教育活動を行い、第三者評価における満足度の水準の維持・向上を図ること。